

中学生向け 年 組

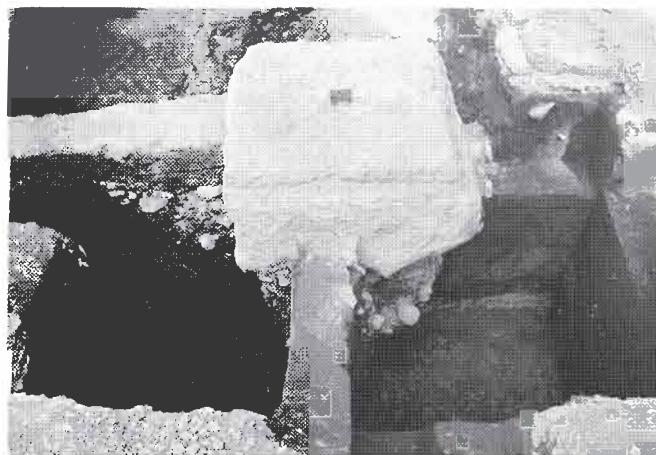
(2023年5月30日付・下野新聞24面)

記事は加工しています

【真岡】高田の高田山専修寺にある国重要文化財「楼門」の保存修理工事に伴う解体調査で、楼門が1691年に建立され、過去5度修理されていたことが29日までに、新たに分かった。楼門の基礎を掘って調べたところ、建立よりもさらに古い時代の溝や建物跡の可能性がある遺構なども見つかった。市教委文化課と寺は6月24日、現地で成果に関する報告会を開催する。
(藤井達哉)

真岡・専修寺の「楼門」調査

ア 年に建立、イ 度修理



楼門の基礎の下から発見された遺構 (市教委文化課提供)

体したところ、柱から横に突き出た「拳鼻」と呼ばれる装飾部の内側から「元禄四年」の正確な建築年を示す墨書が見つかった。各部材を調べると、かやぶき屋根と朱塗りの建物だった建築時から、瓦ぶきへのふき替えやくぎの形の変化、松から杉、ヒノキと異なる材料が使われていることなど5度の修理がなされた形跡があった。

楼門の基礎は砂利を固めて造られており、一部が3、4センチ沈んでいた。沈下部分を掘ると新たな幅2〜3センチの溝が見つかり、さらに下には、赤土で人為的に埋めた痕跡も見つかった。

溝を掘った年代や目的は不明だが、戦国時代の防御施設としての意味合いや、寺を区画するためだった

来月24日現地で報告会

市教委文化課と設計監理を担当する文化財建造物保存技術協会によると、入り

可能性が考えられるという。専修寺は1226年に建立された当時はお堂一つで、室町時代に造営、大型化し、1526年に兵火で炎上したとされている。溝の下から遺構が見つかったことは、楼門があった場所にはもともと古い建物があった可能性を示唆する。
市教委文化課の安永真一

さんは「今の専修寺になる前の伽藍配置がどうなっていたのか、今後につながる発見」と指摘する。楼門の保存修理と耐震補強工事は2021〜24年度に実施し、総事業費は約2億5千万円。報告会は午前10時半から午後1時半から。
真岡市教委文化課0285・83・7732。

【言葉の意味】

・伽藍配置…寺院の建物（金堂、五重塔など）の配置のこと

設 問

【1】「専修寺」がある真岡市は、栃木県のどの位置にあると答えるのが適切でしょうか。次から一つ選びましょう。

ア、北東部 イ、南東部 ウ、北西部 エ、南西部

【2】高田山専修寺がはじめて建立された年代に1番近い歴史上の出来事として、最もふさわしいのは次のどれでしょうか。一つ選びましょう。

- ア、鎌倉幕府の源氏の将軍が3代で途絶える。
イ、織田信長が楽市楽座の政策を行う。
ウ、大阪を中心に元禄文化がさかえる。
エ、自由民権運動がさかんになる。
オ、この記事からは判断できない。

【3】見出しのア、イにそれぞれ当てはまる数字を書きましょう。

【4】次のそれぞれの文で、記事の内容として正しい文には○、まちがっている文や記事からは分からない文には×をつけましょう。

- ア、高田山専修寺の楼門は、瓦ぶきから、かやぶき屋根にふき替えられた。
イ、楼門の基礎部分に新たな溝が見つかったが、こ

れを掘った目的は二つほどあると考えられている。

ウ、高田山専修寺は、建立された当時、お堂が一つしかなかった。

エ、今の高田山専修寺は、法隆寺と同じ伽藍配置である。

【5】みなさんの住む身近な地域に古い建物や史跡があったら、その説明板などを読んで、年代が説明の中に出てきたら、教科書や資料集の年表を見て、その年代に近い「主な歴史上の出来事」を確認したり詳しく調べたりしてみましょう。